

多能工育成が必要

小規模リフォームで粗利向上も

ハウスリフォーマー学院 中田学長

ハウスリフォーマー学院（長崎県西彼杵郡、中田竜学長）は2月23日、紅中（大阪市、中村晃輔社長）が大阪市内で開いた新春講演会・賀詞交歓会で、今後の新築戸建て住宅着工数の減少を見据え、リフォーム需要に対応する多能工育成の必要性を訴えた。

中田学長は「これか

ら生き残る工務店のカタチ」というテーマで講演した。職人不足が懸念されるなか、特に中小工務店で大きな役割を果たす多能工の育成が喫緊の課題となっていることを説明。複数の職種や技術を身に付ける多能工を育てることで、工務店やビルダーの利益が上がるとした。例えば、水周りの交換など小規模リフォームを受けることで粗利を上げることが可能になる。

ハウスリフォーマー育成プログラムでは、12日間の合計80時間で利益拡大と工期短縮に関する技能を学ぶ。システムキッチン・便座・洗面化粧台の取り付け技能、クロス張り替え技能、タイルフロア



多能工育成の必要性を訴える中田学長

番上は単価が高いリノベーション層だが需要が限られている。大きな需要層はリペア層で、この獲得が極めて重要だ」

「施工技術、現場の接客対応能力向上など。また、現場で需要の高いメーカーの資材を活用して実践的な施工方法を学習する。

今後、新築着工数減少に伴いリフォーム需要拡大が狙い目となるなかで中田学長は「リフォーム需要は、そんなに甘くない。一般に

リフォーム市場は、リノベーション層、リペア層とピラミッド型になっている。もちろん、一

と話す。また、「低いハードルから入り込むことで一点突破全面展開を目指すことが必要となる。しかし、そうした需要に対して、中小工務店が対応できない現状を改善するために、多能工のハウスリフォーマーが不可欠になってくる」と訴えた。